

## 犬の術後縫合糸肉芽腫に関する病理学的研究

土田靖彦<sup>1, 2)</sup> 朴 天鎬<sup>1)†</sup> 安家義幸<sup>1)</sup> 磯村 洋<sup>3)</sup> 小嶋大亮<sup>1)</sup>  
植木秀彰<sup>4)</sup> 池田 学<sup>4)</sup> 小山田敏文<sup>1)</sup>

- 1) 北里大学獣医学部 (〒034-8628 十和田市東23番町35-1)
- 2) 青森県 開業 (ごり動物病院: 〒036-8162 弘前市安原1-1-8)
- 3) Pathological Assist (〒060-0061 札幌市中央区南14-1)
- 4) 北里研究所生物製剤研究所 (〒364-0026 北本市荒井6-111)

(2008年7月9日受付・2008年10月14日受理)

### 要 約

術後縫合糸肉芽腫と診断された犬40例について病理組織学的検索を行った。犬種別ではミニチュアダックスフンドが17例と最も多く、性別は雄22例、雌18例であった。年齢は平均5.04歳であった。部位は鼠径部、腹部および腹腔の順に高く、40例中27例は避妊・去勢手術の既往歴を有していた。縫合糸別では絹糸が半数以上を占め、次いでマルチフィラメント吸収糸の順であった。病理組織学的には、縫合糸を取り囲んだ化膿性肉芽腫と壊死性肉芽腫が主体であったが、縫合糸を含まない結節性病変も多数混在していた。病変の程度は絹糸とマルチフィラメント吸収糸を用いた症例において比較的強く認められた。本研究の結果、縫合糸の種類や犬種によって発生頻度が異なること、避妊・去勢手術後の発生が最も一般的であることが示唆された。——キーワード：犬、術後縫合糸肉芽腫、病理組織学。

----- 日獣会誌 62, 388～394 (2009)

---

† 連絡責任者：朴 天鎬 (北里大学獣医学部獣医学科獣医病理学研究室)

〒034-8628 十和田市東23番町35-1 ☎0176-24-9433 E-mail: baku@vmaskitasato-u.ac.jp